

教会月報

No.528 (2022年12月25日)
【2023年1月号】
日本キリスト教団埼玉和光教会
〒351-0114 和光市本町 15-50

神の前で居眠りOK

岩河 敏宏

詩編3編5節 【新改訳】

5 私は身を横たえて、眠る。

私はまた目をさます。

主がささえてくださるから。 ※下線部は筆者

あくまで私見ですが、日本のクリスチャンは勤勉であることが美德とされる傾向が強いと感じます。勤勉それ自体は、実社会でも広く受容されている徳目の一つで、自分もそうありたいと思っておられる方もおられるでしょう。教会内外を問わず、規範として受容されている姿勢は、次第に固定化された概念として組織内に浸透します。それが過度に認識されると、「～でなくてはならない」と無意識の内に規定化され、不文律の規定によって人を排除していることがあります。それは教会にも厳然とあり、昔のことではなく今もあります。

旧約聖書には、神が被造物の中で^{アダム}人を特別な存在として御心に留めて下さっていることが、繰り返し記されています。新約聖書では、イエスが神の御心について具体的に体現しています。イエスが洗礼を受けた際に、「あなたは私の愛する子、わたしの心に適う者」(マルコ1章11節)と声が天からあった後のイエスの言動に注目したい。宣教の第一声は、「時は満ち、神の国は

近づいた。悔い改め(方向転換)て福音(良い知らせ)を信じなさい」(15節)です。続けて、無学な漁師を弟子として召し、汚れた霊に取りつかれた者、多くの病人、重い皮膚病、中風の人、といった具合に当時は神の御心に適わない歩みをした結果だと嫌悪されていた者が、神の御心に適うイエスによって癒されたのです。

イエスの福音が、「～でなくてはならない」という行動規範の有無を遥かに超えた、神の御心を体現していると信頼しているのなら、もっと力を抜いて自然体で神の前に出られるのではないかと考えます。冒頭の聖句は、ダビデが有能な息子のアブシャロムによる謀反によって都落ちした状況が背景にあります。あらゆる危険がダビデを取り囲んでいるにもかかわらず、ダビデは安らかに眠ることができました。神の懐にとどまり(教会に繋がり)さえすれば、後は神が…という神への信頼が「私は身を横たえて、眠る」に体現されています。困難な状況に限らず、私たちの目には怠惰に見えたとしても、それが原因で神の恵みが減じることがないことは、イエスが体現している通りです。自身の行動規範で神の恵みが増減すると考える方が、神に信頼し身を委ねる生き方から距離を置いているとさえ言えます。2023年は悔い改め(方向転換)て、神の前で居眠りOKの一年としましょう。